

## 新潟応用地質研究会の 幹事会をふり返って

山 岸 俊 男\*

思い起こせば、昭和61年に会員の皆様の声の高まりの中、新潟応用地質研究会が再発足したのであります。この再発足に当り、取り組まれた会員の方々には、大変なご苦勞があったと思います。そのご努力に対して心から敬意を表します。この様な中、最初の会長に長岡技科大の池田俊雄先生が、幹事長に石橋輝樹さんがなられ、精力的かつ活発に活動して、当研究会は好スタートをきったわけです。

ところが、翌年の昭和62年4月に幹事長の石橋さんが異動により新潟を離れることになり、はからずも小生がその後を引き継ぐことになりました。

幹事会は、ほとんど毎月開催されていきました。また、幹事の皆様は夫々仕事を持っているため、午後6時頃からの集まりでして、意見が続いた時など場所を居酒屋等へ移動して意見交換をしたこともありました。

次に、当研究会の会長である池田先生が、長岡技科大学を退官され、ご自宅の鎌倉の方へ移られることになり会長を退くことになりました。当幹事会の副幹事長である川島さんから提案があり、先生の奥様も一緒にお呼びして、先生に退官記念特別講演をお願いしようということになりました。

平成元年5月26日新潟郵便貯金会館で、土質工学会北陸支部と共催で開催しました。

その時、奥様に「外国ではこの様なとき奥様には、一番良い席が用意されると聞いていますので、どうぞ前の方に……………」とおさそいしたのですが、奥様は笑顔で「私は一番後で結構です。」と言って、机からも離れた後の壁に並べてある椅子に腰掛け、両手を前に添えて身動き一つせず静かに聞いていた姿が印象的でした。

その後の懇親会では、奥様からは「今日の様な講演会の席は初めてであり、最後でしょう。」と言っておられ、新潟での良い思い出になったものと思います。

次に、年間行事の例会や見学会等の運営については、幹事会で何回も検討され、練り上げ、幹事全員で協力し合いながら実行されております。特に例会では、発表内容が地質に直接関係しない題材をも積極的に取り上げる様に努めたところであり、会員の方々にいろいろな分野の情報提供を心掛けてきました。また見学会では、担当幹事の方々が必ず下見を行い、当

\* 新潟県土木部道路建設課

日の配布資料は目を見はるものであり、それだけでも十分に価値ある資料であります。従って、東京、金沢等の県外からの参加者をはじめ参加された方々からは、おほめの言葉をいただき、それ以来、決まった方々が必ず参加していただいています。そのためには、事前準備が大変でして、各担当幹事の方々が夫々分担し、協力しながら作業して参加者人数分を準備している状況です。

ここで、担当された幹事の皆様に深く感謝すると共に幹事長として十分に役割を果たせなかったことに申し訳なく思っています。

まだまだ思い出は尽きないのですが、当研究会の活性化に取り組んできたことについて述べてみたいと思います。

### 1、異業種の方々からの発表

先にも述べましたが、地質に直接関係しない方々からの発表をしていただき交流すること、他の会と交流すること等により、新しい発想や創造が生まれてくると思います。

これらに対し、かなり広範囲な分野の方々から発表いただいたり、山形応用地質研究会との交流も実現しました。

### 2、若い会員からの発表

若い会員の人達からは例会の際、もっと積極的に発表をして欲しいと思います。若い人達は、研究成果ではなくて自分が担当した仕事の中で「この様にしたら、この様になった。」と言った結果だけでも良いと思います。そこで、会場から意見を聞くことにより、自分が気の付かなかった見方や考え方を勉強できる絶好の機会だと思います。

### 3、女性の積極的な登用

近年、建設業界の各社の技術分野に女性が就いていることから、例会にも少数ではありますが参加していただいております。

また、発表者にも長岡雪氷防災実験研究所の東久美子さんを迎えたりしましたが、今後共、積極的に実施していただきたい。それに、幹事にも女性の登用を図って見たらどうでしょうか。

### 4、当研究会の名称変更

当研究会の名誉会員である津田禾粒先生が、30周年記念特集号（第38号）で、「これほど多くの分野の方々から構成されている当研究会を応用地質と言う、一見せまい分野を示す用語で良いものであろうか。」と提言されています。

私も、いろいろな方々に講演や発表の依頼に行くと、必ず「地質に関係していませんので……。」と断られることがたびたびあり、その都度、そのために「応用」と付けてあり地質以外のことを知るためです、と分かった様な分からない様な説明をしている状況で

す。

また、若い人達の中に「新潟応用地質研究会」の「研究」に目を付け「研究などしていませんので……………」と躊躇されたりすることが多くありました。

この様なことから今後、名称変更について考えてみてはどうでしょうか。

最後になりましたが、私を支えてくれた副幹事長の川島さん、安藤さん、それに各幹事の皆さんと会員の皆様に厚くお礼を申し上げます。